

平成22年度 居宅介護・地域支援サービス研究大会

テーマ

『地域支援の要である居宅介護事業の更なる充実を目指して

～ 支援現場からの発信 この思いを届けたい！ ～』

趣旨

「障害者自立支援法」、「障がい者総合福祉法」・・・制度に振り回されている感もある今日、先行きに不安も募るところではありますが、居宅介護事業が地域支援にとって重要なサービスの一つであることに変わりはありません。

本研究大会では、制度にとらわれることなく障害のある人の生活・ニーズを中心に事業展開されている事業所の実践事例等を通じて、居宅介護事業の役割を再確認し、これから私たちがなすべきことは何かを検証するとともに、提言することができればと思います。

また「福祉は人なり」と言われますが、本研究大会を通じて、熱い思いと誇りを持って働ける環境づくりを目指してもらえることを切に願っています。そして何よりご参加いただいた方、一人ひとりが会場から事業所へ、事業所から利用者へと繋がる笑顔と元気を持って帰っていただけることを心より期待しています。

主催

財団法人 日本知的障害者福祉協会 地域支援部会 居宅介護事業等分科会

開催日

平成22年11月10日(水)・11日(木)

会場

ホテルJALシティ田町 東京
(〒108-0023 東京都港区芝浦3-16-18 TEL 03-5444-0202)

定員

300名

参加費等

研修会参加費 10,000円 交流会費 7,000円

日程

第1日目 11月10日(火)

12:00 12:30 12:40 14:00 14:10 17:00 17:30

受付	開会式	講演	休憩	シンポジウム	休憩 移動	交流会
----	-----	----	----	--------	----------	-----

第2日目 11月11日(水)

9:00 12:00

シンポジウム	閉会式
--------	-----

研修内容

第1日目

■開会式■

■講 演■ 12:40～14:00

「これからの居宅介護事業に求められること

～地域の中でそれぞれの人生を、その人らしく生きることを支援するための取り組み～

副島 宏克 氏

(社会福祉法人 若葉 地域生活総合支援センター「はばたき」)

プロフィール

1980年7月～2001年	因島市手をつなぐ親の会 会長
1985年5月～2001年	因島共同作業所第二であいの家 所長
1986年4月～現在	広島県知的障害者 相談員
1990年6月～現在	社団法人広島県手をつなぐ育成会 理事
1991年4月～現在	知的障害者通所授産施設「因島であいの家」施設長
1997年6月～現在	社会福祉法人全日本手をつなぐ育成会 理事
1999年4月～現在	社会福祉法人「若葉」総合施設長
2001年6月～現在	因島地域手をつなぐ育成会 代表
2003年6月～2007年	社会福祉法人全日本手をつなぐ育成会 副理事長
2005年4月～現在	厚生労働省労働政策審議会 委員
2007年6月～現在	社会福祉法人全日本手をつなぐ育成会 理事長
2007年6月～現在	内閣府障害者施策推進協議会 委員
2008年4月～現在	厚生労働省社会保障審議会 委員
2008年7月～現在	文部科学省協力者会議 委員

私たちが目標とする社会は「共生社会」を目指すことです。そして、障害のあるその人のライフステージにわたる切れ目のない支援体制を作ることです。障害のある人も、幼児期、学齢期、成人期、高齢期と人生を歩いていきます。私たちは、障害者福祉と高齢者福祉（家族支援）の組み合わせで、障害のある人およびその家族のライフステージを支えていくことを考えました。具体的には、障害者の日中活動支援、暮らしの生活支援、余暇を含む地域での生活支援（居宅介護事業等地域支援）、あわせて高齢者の日中活動支援、生活支援、余暇を含む地域での生活支援です。これらの事業を組み合わせることで、親は親の人生、子は子の人生を考えることができ、安心して地域へわが子を託すことができます。一人ひとりの人生を考えると、そのことが大切なのです。

■ シンポジウム ■ 14:10～17:00

「これからの居宅介護事業に求められること」

障害者自立支援法に伴う新事業体系への移行、新たな「障がい者総合福祉法」制定への準備が進んでいますが、いまだ不透明な状態が続いており、依然として居宅介護事業をとりまく状況には厳しいものがあります。しかし、どのような状況にあろうとも私たち事業者は支援を必要としている利用者がある限り、ニーズに適切に応えるためのサービス提供体制を整える努力をしなければなりません。本シンポジウムでは、それぞれの立場で工夫や努力を重ねながら実践に取り組んでいる事業所に学び、支援のあり方についての論議を行い、居宅介護事業の重要性を再確認する場にしたいと思います。

シンポジスト

河内 崇典 氏（大阪府：みらいず）

障害のある方が親亡き後も地域で一生暮らすことができるよう、一人ひとりにあったサポートを行い、様々なニーズに応じていけるように、福祉や医療の他事業所、そして地域との連携を大切にしています。主な事業としては、自立支援法の居宅介護、移動支援、そして介護保険の事業、また発達障害の方等の支援や高齢者の余暇支援、障害のある方への自立体験事業など、様々な角度からその人の地域生活を支援できるよう活動を展開しています。

小林 繁樹 氏（新潟県：おれんじぼーと）

当事業所は、行動援護、移動支援等のガイドヘルプを中心とした訪問系サービスを行っています。日中一時支援事業、福祉有償運送事業や相談支援事業とも連携させ、包括的に障害児・者の地域生活を支えていくことを目標としています。登録者は180名であり、実質的には毎月120名程度の利用者が外出の支援を中心に利用されています。また、法人としては、設立当初から広範性発達障害の方の支援に力を入れており、当事業所でも概ね6割から7割の方が重度の知的障害を伴う自閉症、発達障害の方です。このことにより、ガイドヘルプにおいても、その4割が行動援護サービスの利用となっています。

遠藤 紫乃 氏（千葉県：ほっとハート）

「障がいがあっても、歳を重ねても、地域でありのままに、その人らしい暮らし」を基本理念に、当事業所は平成7年より千葉縣市川市において地域で暮らし続けるための支援を、主に精神障がいのある方に行なってきました。まず、はじめは日中活動の場所、安心して暮らせるグループホーム、そして一人暮らしの方々にも必要な支援が行き届くようにと、平成15年よりホームヘルプサービスを開始しました。精神障がいのあるの方々を中心に、知的障がい、発達障がい、認知症などの方々の生活支援を行っています。障がいがあっても、地域で一人暮らしができるようにその方にあった個別支援を目指しています。

コーディネーター

尾形 永造 氏（北海道：ワークセンター一条）

当法人の居宅介護事業所は、通所授産施設（既に多機能型事業所に移行済み）を中心とした事業の展開のなかで、ひとり暮らしを余儀なくされた利用者への地域支援の一つとして開設されました。昨年度は、延べ提供時間数が2千時間と小規模な実績しか残せませんでした。行政や相談事業所から支援が困難なケースの依頼が増えています。障がい者事業所が母体ということで、「専門性を持っている」と評価されたためでしょう。期待に添えるよう支援の質を問い続けながら、関係機関との連携を図っていきたいと思います。

■ 交流会 ■ 17:30～

第 2 日 目

■シンポジウム■ 9:00～12:00

「これからの居宅介護・地域支援サービスを構築する」

第一日目のシンポジウムにおける実践報告を受けて、新たな制度(総合福祉法)において、居宅介護・地域支援サービスは、どのように変わっていくべきであるか、変わってはならないものは何であるかを議論したいと思います。そして、真に障害者の地域生活を支えることができる居宅介護・地域支援サービスのシステムについて、各シンポジストの御意見を伺いながら、提言をすることができればと思っています。

シンポジスト

高塚 政生氏 (愛媛県:なかまたち)

(職 歴)

1973年、牛島義友先生創立の御殿場コロニー・野菊寮に赴任し知的障がい児・者との共同生活を始める。
1986年から三年間をタイにて、1995年から三年間をウガンダにて海外協力ボランティア。
2000年7月、愛媛県四国中央市にて「なかまたち」創設、施設長となる。
2008年、四国中央市発達支援相談連絡会会長。2009年、四国中央市自立支援協議会権利擁護部会長現在に至る。

川田 晋氏 (兵庫県:地域支援事業所 ぱれっと)

(職 歴)

平成5年(社福)神戸あゆみの会 知的障害者更生施設あゆみの里支援部課長、ライフサポートセンターCOMM'S あゆみ管理者兼サービス提供責任者、平成18年(NPO)地域支援と高齢・障害の垣根を越えた社会保障を考える会 地域支援事業所ぱれっと統括管理者

河原 雄一氏 (神奈川県:湘南セシリア/日本知的障害者福祉協会政策委員会副委員長)

(職 歴)

横浜市役所・平成元年(社福)藤沢育成会湘南セシリア・湘南ゆうき村建設準備室主任、ソーシャルワーカー、援助課長、湘南ゆうき村施設長・現在 湘南セシリア施設長

(社会活動歴)

日本知的障害者福祉協会政策委員会副委員長・神奈川県知的障害福祉協会副会長・神奈川県障害者施策推進協議会委員・藤沢市障害福祉計画策定委員・藤沢市障害者介護給付審査会審査員・かながわ障がいケアマネジメント従事者ネットワーク事務局長・神奈川県相談従事者養成研修演習講師・国サービス管理責任者指導者研修演習講師

佐々木 薫 氏 (厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部障害福祉課 課長補佐)

コーディネーター

山西 孝 氏 (山梨県:白樺園/居宅介護事業等分科会 副座長)

■閉 会 式■